

京都市生活安全ビジョン 資料編

(第4次防犯・事故防止基本計画)

令和8年3月

第1 第1次から第3次までの京都市生活安全基本計画の概要

京都市では、平成11年4月に施行した「京都市生活安全条例」に基づき、生活安全施策を総合的かつ計画的に推進するための柱となる「京都市生活安全基本計画」を策定し、市民及び国内外から観光や仕事、通学、買物等で京都市内に滞在されている方々が、安心して生活・滞在できる「だれもが安心してくらするまちづくり」を進めています。

第1次京都市生活安全基本計画

【計画期間】

平成12年度から平成21年度まで

※次期計画を京都市基本計画「京プラン」に合わせて平成23年度からのスタートとするため、第1次計画を22年度まで1年延長

【計画推進の基本的な考え方】

- 1 自らを守る意識の高揚
- 2 連携・ネットワークの確立
- 3 「生活安全推進協議会」の設置

第2次京都市生活安全基本計画

【計画期間】

平成23年度から平成32年度まで

【計画推進の基本的な考え方】

- 1 自らを守る意識の高揚
- 2 連携ネットワークの充実
- 3 区が共汗でバックアップ

※平成26年に京都府警察と「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」(以下、「世界一運動」という。)に係る協定を締結し、運動を展開した。

第3次 令和3年8月策定

【計画期間】

令和3年度から令和7年度まで

【計画策定の趣旨】

- 1 一人一人の防犯・交通事故防止の意識の高揚
- 2 犯罪や交通事故の発生の未然防止
- 3 被害拡大防止のための対応、被害に遭われた方への支援

【重点戦略】

- 1 犯罪抑止・子交通事故暴徒のための環境づくりの推進
- 2 地域における「見せる防犯」の拡大～防犯活動の活性化～
- 3 新たな社会情勢の変化に対応した取り組みの推進

※令和3年、「世界一運動」に係る協定を再締結し、第3次計画における防犯面の主力事業の一つと位置付けた。

※令和8年1月27日、「世界一運動」に係る永続的な協定を締結し、今後、「世界一運動」の「運動プログラム」については、2年ごとに見直ししながら多様化する犯罪情勢に対応するものとして策定した。

第2 京都市域での刑法犯の認知件数の推移（令和7年は暫定値）

全国的には、平成14年に戦後最悪の認知件数となったが、その後は減少傾向にある。

京都市においても、平成16年をピークに減少傾向にある。令和2年のコロナによる行動制限等の影響を受け、いったん大きく減少したものの令和4年の規制緩和に伴い増加傾向に転じている。

（令和6年8,080件に対し、令和7年8,353件の273件増、前年比3.4%増）

別図参照

特殊詐欺については、令和7年中の被害は認知件数の増加に加え、被害額は約19億円と過去最悪となるなど、深刻な情勢が続いている。被害の特徴は、警察官騙りの手口が多く、その被害は高齢者だけでなく若年層にも広がっており、また、犯行に利用された電話番号のうち約7割が「+」から始まる国際電話の番号となっている。

ストーカー事案の相談等件数及び配偶者からの暴力事案等の相談等件数が増加傾向にあるほか、児童虐待又はその疑いがあるとして警察から児童相談所に通告した児童数が過去最多に上るなど、注視すべき状況となっている。

また、SNSで実行犯を募集する手口が特殊詐欺のみならず強盗等にまで拡大するなど、市民の体感治安を著しく悪化させる状況となっている。

第3 京都市域での交通事故発生件数の推移（令和7年は暫定値）

令和7年における、京都市内の交通事故の状況は、発生件数は2,312件（前年比1.0%増）、負傷者数は2,587人（前年比0.2%増）と増加した。

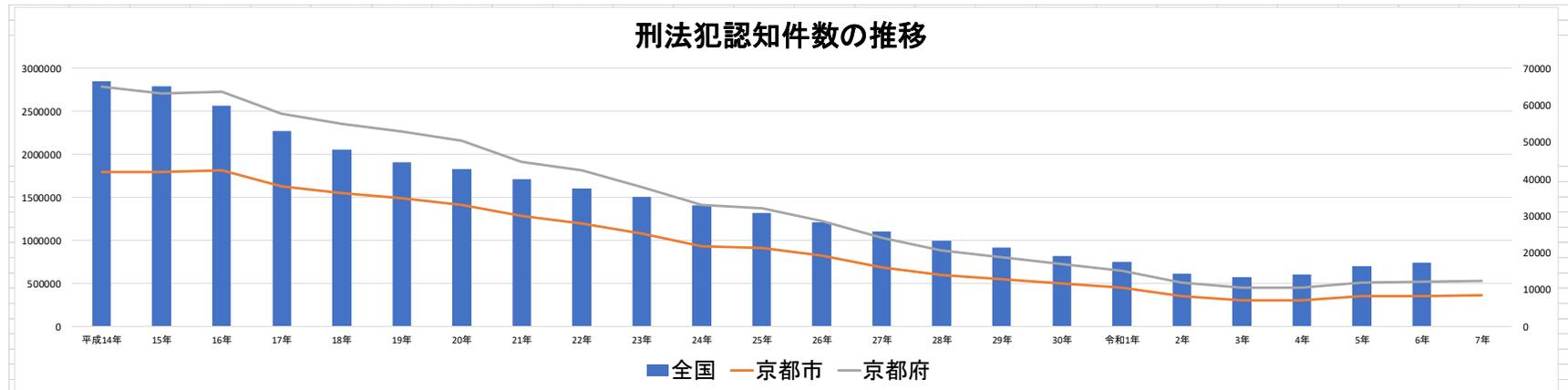
死者数については、昨年から3人増加し24人（前年比14.3%増）となった。高齢者の死者数は前年比で4人（R6：8人⇒R7：12人）増加し、死者数（R7：24人）に占める高齢者（R7：12人）の割合も50.0%（前年比28.8%増）まで増加している。

今なお多くの尊い命が交通事故で失われていることには変わりなく、高齢運転者による事故、こどもが犠牲となる痛ましい事故が後を絶たない現実を踏まえれば、交通事故情勢は依然として厳しい状況にある。

また、新しいモビリティである特定小型原動機付自転車の事故発生件数は6件（R6：2件⇒R7：6件）と増加し、5件は軽傷事故であるが、1件重傷事故（伏見区）が発生している。自転車とともに安全利用・ルールの徹底が求められている。

別図参照

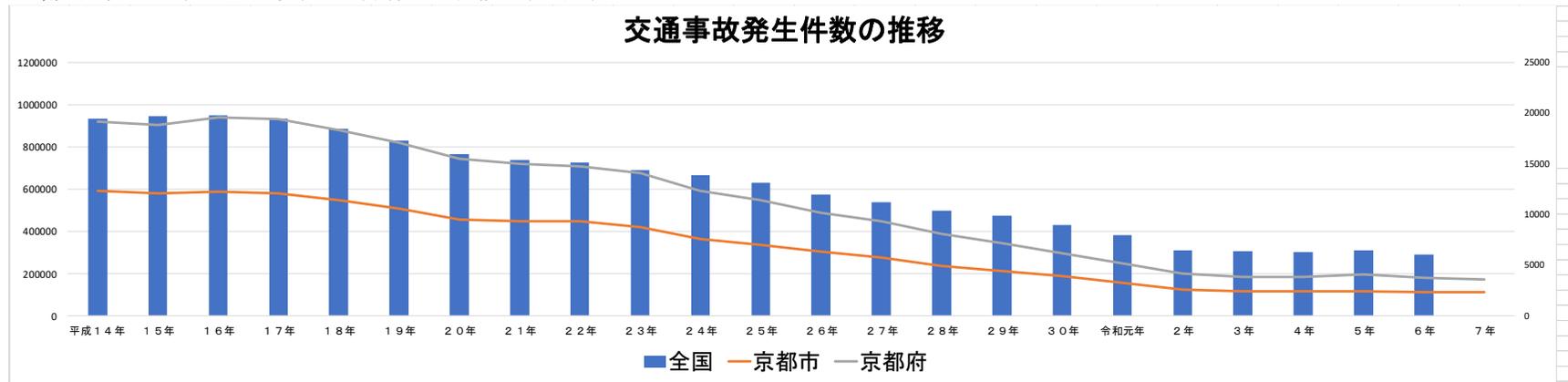
京都市域での刑法犯の認知件数の推移（別図）



	平成14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
全国	2853739	2790136	2562767	2269293	2050850	1908836	1826833	1714001	1604205	1502802	1403270	1314140	1212163	1098969	996120	915042	817338	748559	614231	568104	601331	703351	737679	
京都市	41830	41943	42395	37941	36102	34679	32962	29864	27832	25174	21693	21326	19146	15934	13830	12770	11660	10405	8155	6969	7032	8104	8080	8353
京都府	65082	63291	63593	57586	54932	52960	50259	44538	42258	37810	32866	31944	28671	24068	20479	18603	16821	15136	11852	10483	10578	11885	12059	12398

（令和7年は暫定値、全国の数値は集計中）

京都市域での交通事故発生件数の推移（別図）



	平成14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
全国	936950	948281	952709	934339	887257	832691	766382	737628	725903	692056	665138	629021	573842	536899	499201	472165	430601	381237	309178	305196	300839	307903	290895	
京都市	12358	12079	12236	12070	11405	10586	9537	9308	9342	8763	7601	7018	6330	5750	4909	4397	3888	3279	2607	2423	2401	2419	2288	2312
京都府	19174	18884	19590	19460	18346	17094	15517	15009	14775	14084	12371	11387	10185	9328	8087	7145	6142	5183	4118	3859	3810	4067	3745	3586

（令和7年は暫定値、全国の数値は集計中）

第4 市民アンケート結果

次期基本計画の策定に向け、次期計画の在り方を検討する資料を作成することを目的に市民アンケートを実施した。

調査実施期間 令和7年2月3日～令和7年2月28日
調査方法 インターネット調査
回答者数 876人

調査概要については、別添のとおり

次期京都市生活安全（防犯・交通事故防止）基本計画策定のための市民アンケート調査結果【概要】

調査目的

- 令和8年度からの新たな京都市生活安全（防犯・交通事故防止）基本計画策定のための基礎資料
- 安心で安全な暮らしを実感しているか、地域による防犯・事故防止への考え方など、市民の意識やニーズを把握するために実施

調査概要

- 調査対象者：18歳以上の京都市民
- 抽出方法：無作為抽出
- 調査期間：令和7年2月3日（月）～2月28日（金）
- 調査方法：インターネット調査（民間の調査会社に登録するインターネットモニター）
- 回収数：876人
（年齢：18・19歳45名、20代123名、30代141名、40代141名、50代146名、60代146名、70代以上134名）
（性別：男性409名、女性462名、無回答5名）
- 比較対象となる調査：

	調査名	実施時期	対象	回収数（回収率）
前回調査（京都市）	第3次京都市生活安全基本計画に向けたアンケート調査	R1.11	18歳以上の京都市民	1,168/3,000 (38.9%)

設問設計

分野	設問内容	分野	設問内容		
犯罪や迷惑行為に関する安心・安全	問1 犯罪にあう可能性	犯罪被害者支援	問13 自身や周囲の人が犯罪に巻き込まれた経験の有無		
	問2 犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由		問14 相談に行った場所／いこうと思う場所		
	問3 特に不安に思っている犯罪や迷惑行為		問15 知っている相談機関		
	問4 犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所	地域による防犯・交通事故防止	問16 住犯罪等の被害にあった場合、相談できると思うか		
	問5 普段行っている防犯対策		問17 地域活動で特に大切だと思う活動		
	問6 特殊詐欺に対する意識		問18 地域防犯・交通事故防止活動の強化のために必要なこと		
	問7 自身が特殊詐欺被害にあわないと思う理由		京都市の安心・安全の取組	問19 京都市の安心・安全（防犯・交通事故防止分野）に関する取組の認知度	
	問8 よいと思う安心安全の取組			安心・安全を実現するための総合的な取組	問20 ご意見・ご要望（自由記述）
	問9 交通事故にあう可能性				
交通事故に関する安心・安全	問10 特に不安を感じる交通事故				
	問11 不安を感じる交通事故の理由				
	問12 高齢運転者の事故を防ぐために重要だと思うこと				



主な調査結果

●：結果、□：分析を記述

1. 犯罪や迷惑行為に関する安心・安全

- 犯罪にあう可能性が「高くなった」（「非常に高くなった」「高くなった」の計）は30.1%で、そう感じる理由としては、「全国的に凶悪な事件が多発しているから」（64.3%）、次いで、新規項目である「旅行者、観光客のマナー違反による迷惑行為が増えたと感じるから」（50.6%）が上位となった。【問1、2】
- 特に不安に思う犯罪は、「空き巣、ひったくりなどの財産をねらう犯罪」（45.7%）、次いで「特殊詐欺や悪質商法などの詐欺」、「旅行者、観光客のマナー違反による迷惑行為」（34.4%）が上位となった。新規項目である「アルバイト関連の犯罪」についても（32.2%）高い水準となった。【問3】
- 「子どもをねらう犯罪」について、前回調査と比較すると減少している。（18.7%、前回：37.8%）



○犯罪にあう可能性は、「高くなった」が前回調査と比較すると減少している。（前回：45.8%）一方で「変わらない」との回答が66.4%と半数以上を占めた。引き続き、市民の体感治安を向上させていくための取組を進めていく必要がある。

○犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由として、前回調査で2番目に回答が多かった「インターネットを用いたサイバー犯罪など、多様化、巧妙化してきたから」についても、42.6%と引き続き高い回答となった。デジタル社会となり、便利になった一方で、犯罪に巻き込まれる、加担するなどの課題が出ている。

○特に不安に思う犯罪において10代は「SNSなどインターネットを利用する中で受ける被害」が最も高い。また、「特殊詐欺や悪質商法などの詐欺」は年齢が高くなるにつれ、割合も高くなった。年代により不安を感じる犯罪もばらつきがある。

- 普段行っている防犯対策は「知らないところからの電話やメール等に対応しない」が50.6%と半数を超えている。次いで「来客があった場合も身元が確認できるまでドアを開けない」（35.7%）が上位に来ている。【問5】
- 特殊詐欺に対する意識について約7割が「被害に遭わない」（「被害に遭わないと思う」「どちらかといえば被害に遭わないと思う」の計）と回答している。理由としては、「知らない電話には出ない、不審な電話はすぐ切るから」（76.9%）、「自分で判断せず、誰かに相談するから」（34.5%）が上位であった。【問6、7】
- よいと思う安心安全の取組は、「自分が被害にあわないように、防犯情報などを自ら積極的に収集するなど安全対策を取る」（44.9%）、「家族や周りの人が犯罪の被害にあわないよう気をつけたり、話したりする」（37.2%）が上位であり、特に40～70歳以上で高い。【問8】



○20代から40代において、普段からの防犯対策を「特にしていない」と2割を超えて回答があった。若い世代においても防犯対策が必要である。

○普段の防犯対策においても、個人ですぐにできる防犯対策が多い傾向がある。

○特殊詐欺の被害に遭いやすい60代70代以上においては、単身世帯や夫婦2人世帯でも「被害にあわないと思う」という回答が7割を超えているため、より一層の注意喚起が必要である。

○特殊詐欺被害に遭わないと思う理由について、10代から30代においては「騙されない自信があるから」が2割以上の回答である。高齢者だけでなく、若者層も対策が必要である認識を広めていく必要がある。

主な調査結果

2. 交通事故に関する安心・安全

- 交通事故に遭う可能性について、「高くなった」「非常に高くなった」「高くなった」の計は35.3%、前回調査と比較すると26.6ポイントの減少であった。【問9】
- 特に不安を感じる交通事故は、「自動車の危険運転が原因の交通事故」(36.6%)であり、次いで「自転車の危険運転が原因の交通事故」(24.4%)となった。新項目の「特定小型原動機付自転車(電動キックボード等)の交通事故」については11.0%であった。【問10】
- 不安を感じる交通事故の理由として、「ながら行動」(67.7%)、「交通マナー違反」(56.6%)が上位。新規項目の「あおり運転」は36.0%であった。【問11】
- 高齢運転者の事故を防ぐために重要だと思うことは、「高齢運転者の身体機能のチェックの強化」(46.8%)、「認知検査結果に基づく運転免許証の自主返納の促進」(42.8%)、「高齢者の移動手段確保に向けた公共交通網の整備」(26.0%)が上位。【問12】



- 電動キックボードやあおり運転等、時勢に合わせて新規項目を追加した。
- 自動車、二輪車、自転車、歩行では、「ながら行動(スマホ操作やイヤホン使用)」が理由として1番に挙げられている。特定小型原動機付自転車については「交通マナー違反」が1番の理由であった。次いで「ながら行動」である。特定小型原動機付自転車の交通ルールについて、引き続き啓発を行う必要がある。
- 前回調査同様、高齢者が関係する事故を防ぐためには、認知機能、身体機能のチェックの強化とそれに基づく自主返納の促進を進めるとともに、代替の移動手段確保に向けた公共交通網の整備が必要である。

3. 犯罪被害者支援

- 自身や周りの人が巻き込まれたことのある犯罪は、「巻き込まれたことはない」を除くと、「交通事故」(16.8%)、「財産をねらう犯罪(窃盗など特殊詐欺以外)」(6.8%)が上位。前回調査と比較すると全項目について、微増となっている。【問13】
- 犯罪に巻き込まれたときの相談先は、「警察」(68.8%)が最も高い。そのほか、「相談していない/相談しない」は23.6%、「相談窓口がわからなかった」は2.3%。【問14】
- 知っている相談先がない(48.4%)が約5割を占めている。知っている相談先は、「京都府警察(犯罪被害者支援室、京都ストーカー相談支援センターKSCC)」(29.5%)、「京都市(くらし安全推進課)」(24.3%)が上位。【問15】
- 性犯罪の被害にあった場合、相談するかについては、「打ち明けたり相談することができるかわからない」(39.8%)、「家族や親戚」(に相談する)(25.0%)が上位。【問16】



- 何らかの犯罪に巻き込まれた経験のある人の約1割は、どこにも「相談していない」。被害にあったときの相談先を一つも知らない人のうち、約4割は犯罪に巻き込まれた経験があるため、更なる相談機関の周知が必要である。
- 犯罪に巻き込まれたときの相談機関の認知度については、「(公社)京都犯罪被害者支援センター(京都市犯罪被害者総合相談窓口)」が7.1%と前回調査と同様低い水準であり、引き続き、相談窓口の周知・認知度向上に取り組む必要があると考えられる。(前回:7.0%)
- 性犯罪等の被害にあった場合、相談するかについては、「打ち明けたり相談することができるかわからない」が約4割となっており、被害が潜在化しやすいことがうかがえる。

4. 地域による防犯・交通事故防止

- 地域(自治会・町内会など)活動で特に大切だと思う分野は、「防犯・迷惑行為の追放の取組」(40.1%)が最も高い。また、「子どもの見守り活動」(36.4%)が上位。【問17】
- 地域防犯活動を強化するための課題としては、「市民一人一人の防犯意識の高揚」(33.2%)、「地域の交番など警察との連携を強化する」(28.5%)が上位と前回調査と同じ結果となった。【問18】



防犯カメラ作動中

- 地域活動で特に大切だと思う活動について、「特になし」が22.4%を占めている。地域での防犯対策ではなく、個人での防犯意識が高まってきているといえる。
- 地域活動で大切である活動は「防犯・迷惑行為の追放の取組」が最も高い。防犯カメラの設置推進等を引き続き行う必要がある。
- 地域防犯活動を強化するには「市民一人一人の防犯意識の高揚」が必要。20代から40代については「わからない」との回答が3割を超えていた。地域での防犯対策より個人での防犯対策の意識が高いことがうかがえる。

5. 京都市の安心・安全(防犯・交通事故防止分野)の取組

- 京都市の安心・安全に関する取組について、「知っているものはない」が54.6%と過半数を占めた。【問19】
- 「知っている」は、「行政、警察、地域住民、事業者の方々と連携して安心安全の取組を行う「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」(17.7%)、「交通安全啓発(区・支所や警察署等の関係団体と連携した啓発活動等)」(17.6%)が上位。



- 京都市の安心・安全(防犯・交通事故防止分野)に関する取組の認知度は、全ての項目で20%以下という状況から、より効果的な啓発活動を行う必要がある。

6. 安心・安全(防犯・交通事故防止分野における)を実感するための総合的な取組

(自由記述)【問20】

- 一人一人の意識の向上や情報収集、高齢者の孤立を防ぐ活動が必要だと思う。
- 特に地域との関係性が希薄な現代において、地域の繋がりが地域ぐるみの防犯意識向上が重要だと思う。
- 防犯カメラをもっと増やすべき。
- ながら運転や、自転車の危険走行など、取り締まりを強化してほしい。
- キックボードの規制基準を強くする。一部の人のマナー違反が大きな犠牲を生む可能性がある。
- 各種相談窓口がわかりやすいようにしてほしい。
- 警察と連携できるような状態を常に作り、安心安全な生活が出来る社会で暮らしたい。

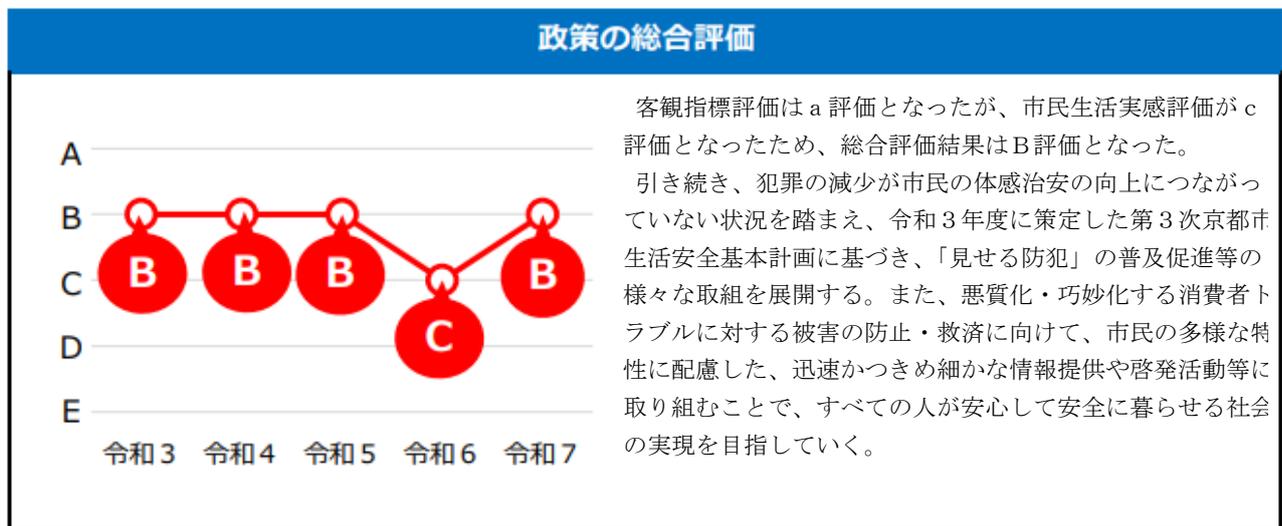


第5 政策評価

令和7年度の「市民生活の安全」分野における政策評価結果は、総合評価としてB評価となっている。

「客観指標評価」においては、「交通事故死者数」の減少や、市民・行政・警察等が一体となり、年齢層に応じた様々な防犯・交通安全啓発を実施したことや、教育・啓発を積極的に実施してきたことが市民の関心・理解の向上につながったことでa評価となっている。

一方で、「市民生活実感評価」においては、特殊詐欺やSNS詐欺を始めとする犯罪被害が増加傾向にあることや、匿名・流動型と言われる「闇バイト」による強盗事件など市民生活を脅かす多種多様な犯罪に関するニュースが日常的に報道されることを受け、デジタル化の急速な進展に伴いトラブルが複雑化・多様化していることも相まって、市民の間にこれらの犯罪等が身近に起こりうるという不安感があり、C評価となっている。



令和7年度 政策評価結果 27政策の評価票 4「市民生活の安全」から引用

第6 京都市市民生活実感調査

市の政策評価制度の一環として、市基本計画に掲げる政策・施策がどの程度達成されているかについて市民の方々の実感を把握するため、生活実感、政策重要度、市政関心度、幸福実感、自由記述、の5項目の調査を平成16年度から毎年、市が行っているもの。

生活実感については、顕著な変化はないが、「地域のつながり」「近所のあいさつ」「自治会かつどう」などで減衰傾向がみられ、政策重要度では「市民生活の安全」に対する関心が依然高い。

- Q 町内会・自治会などの地域の組織の活動が盛んである。
(令和6年:市民・事業者等により、地域の防犯・交通安全活動が盛んに行われている。)

	平成25年	令和元年	令和6年
そう思う	11.1	12.2	3.7
どちらかというと思う	34.8	32.8	23.1
どちらとも言えない	30.4	29.4	48.7
どちらかというと思わない	14.0	12.8	16.6
そう思わない	6.0	8.15	7.2

- Q 地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。
(令和6年:自治会・町内会等が、防災、防犯、見守り活動、町内美化等、地域のための取組を行っている。)

	平成25年	令和元年	令和6年
そう思う	4.8	4.4	5.5
どちらかというと思う	26.1	26.7	29.8
どちらとも言えない	35.3	33.8	38.6
どちらかというと思わない	16.8	16.7	17.9
そう思わない	7.2	9.9	6.6

- Q 犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。
(令和6年:相当する設問の設定が無い。)

	平成25年	令和元年	令和6年
そう思う	3.9	5.8	—
どちらかというと思う	26.5	27.4	—
どちらとも言えない	37.5	37.4	—
どちらかというと思わない	16.8	14.0	—
そう思わない	9.0	9.2	—

Q 事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にさせるまちになっている。

(令和6年：相当する設問の設定が無い。)

	平成25年	令和元年	令和6年
そう思う	6.7	7.4	—
どちらかというと思う	33.9	37.6	—
どちらとも言えない	35.3	32.5	—
どちらかというと思わない	13.4	10.8	—
そう思わない	5.5	7.5	—

Q 子どもたちが安心して過ごせる居場所や遊び場が身近にある。

(令和6年：相当する設問の設定が無い。)

	平成25年	令和元年	令和6年
そう思う	6.9	7.2	—
どちらかというと思う	27.2	28.1	—
どちらとも言えない	28.6	29.0	—
どちらかというと思わない	17.7	16.4	—
そう思わない	11.1	10.8	—

Q 地域のつながりが福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。

(令和6年：地域のつながり、交流が深まり、犯罪等の心配が少なく、安心して安全にさせるまちとなっている。)

	平成25年	令和元年	令和6年
そう思う	6.5	6.3	2.7
どちらかというと思う	33.0	33.3	27.3
どちらとも言えない	28.3	32.6	42.1
どちらかというと思わない	14.7	11.0	20.9
そう思わない	5.3	4.7	5.5

Q 地域の一員として安心してらせるまちになっている。

(令和6年：近所で日頃からあいさつが行われるなど、人と人がつながり、安心して暮らせる地域になっている。)

	平成25年	令和元年	令和6年
そう思う	10.7	10.8	4.3
どちらかというと思う	41.2	42.0	26.8
どちらとも言えない	27.5	29.3	38.2
どちらかというと思わない	11.8	10.2	19.6
そう思わない	4.7	4.5	10.4

Q 多様なNPOやボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。

	平成25年	令和元年	令和6年
そう思う	7.9	10.5	2.7
どちらかというと思う	32.2	35.6	22.2
どちらとも言えない	31.2	28.9	42.7
どちらかというと思わない	11.7	14.0	22.8
そう思わない	5.8	4.4	7.8

Q 悪質商法などによる消費者被害を防止し、被害を救済するしくみが整っている。

	平成25年	令和元年	令和6年
そう思う	2.8	2.9	3.3
どちらかというと思う	17.3	17.6	16.6
どちらとも言えない	39.8	44.8	47.9
どちらかというと思わない	18.7	17.4	21.9
そう思わない	8.4	9.4	9.2

Q 消費生活に関する情報や知識を備えた自立した消費者が増えている。

	平成25年	令和元年	令和6年
そう思う	4.9	4.8	2.7
どちらかというと思う	29.4	27.2	28.3
どちらとも言えない	39.1	39.0	45.6
どちらかというと思わない	10.9	13.5	18.5
そう思わない	5.4	7.6	3.5

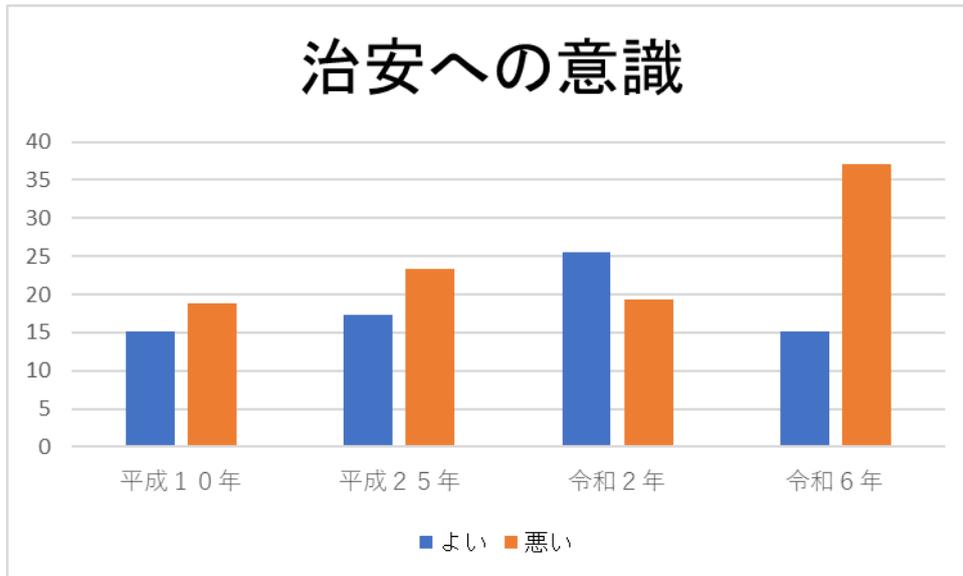
Q 政策の重要度

	平成25年	令和元年	令和6年
市民生活とコミュニティ	84.1	80.8	52.0
市民生活の安全	90.4	88.4	78.9

第7 世論調査

内閣府実施の社会意識に関する世論調査（令和6年10月調査）では、現在の日本の状況について、良い方向に向かっていると思われるのは、どのような分野か聞いたところ「治安」（15.1%）は4位であった。令和2年の調査結果と比較してみると、「治安」（25.6%→15.1%）を挙げた者の割合が低下している。

一方、悪い方向に向かっている分野では、「治安」（37.1%）は5位であった。令和2年の調査結果と比較してみると、「治安」（19.3%→37.1%）を挙げた者の割合が増加している。



Q 良い方向に向かっていると思われるのは、どのような分野についてでしょうか。
「治安」の数値

	平成10年	平成25年	令和2年	令和6年
総数	15.1	17.3	25.6	15.1
男性		18.3	28.8	18.2
女性		16.4	23.0	12.4

Q 悪い方向に向かっていると思われるのは、どのような分野についてでしょうか。
「治安」の数値

	平成10年	平成25年	令和2年	令和6年
総数	18.8	23.3	19.3	37.1
男性		24.0	22.3	38.2
女性		22.7	16.9	36.2

「交通秩序」については、良い方向に向かっていると思われる（12.8%）は8位であり、令和2年の調査結果と比較してみると、「交通秩序」（16.4%→12.8%）を挙げた者の割合が低下している。

悪い方向に向かっていると思われるのは、「交通秩序」（11.4%）は20位であり、令和2年の調査結果と比較してみると、「交通秩序」（10.6%→11.4%）を挙げた者の割合が微増している。

第8 市民意見の募集について

1 市民意見募集の実施について

(1) 募集期間

令和8年1月15日（木）から令和8年2月16日（月）まで

(2) 周知方法

- ・京都市情報館（ホームページ）掲載
- ・京都市公式 SNS（LINE、X、Facebook、YouTube）掲載
- ・京都市職員に対し全庁掲示板に掲載
- ・大学生への周知
 - 学生向けアプリ（KYO-DENT）への掲載
 - 大学コンソーシアム京都加盟校等へのメール発信
- ・市民意見募集リーフレットの配布
 - 市役所、各区役所・支所、各市立図書館、いきいき市民活動センター、京都府警察、学生防犯ボランティアロックモンキーズ、他関係機関等
- ・イベント等でのパブリックコメント公募啓発
 - 京都府警察 年頭視閲式（令和8年1月17日）
 - 東寺東門（令和8年1月21日）
 - 左京区まちづくり交流会 2026（令和8年2月24日）
 - 出前講座（令和8年2月 6日）

(3) 意見募集結果

ア 応募者数及び意見数

応募者数：63人

団体数：3団体

意見数：120件

イ 御意見をいただいた方の属性

① 年齢

	人数	割合
19歳以下	2人	3.2%
20歳代	16人	25.4%
30歳代	8人	12.7%
40歳代	9人	14.3%
50歳代	7人	11.1%
60歳代	9人	14.3%
70歳代	11人	17.5%
無回答	1人	1.5%
合計	63人	100.0%

② お住まい等

	人 数	割 合
京都市内在住	50人	79.4%
京都市内に通学・通勤(市外在住)	6人	9.5%
その他	5人	7.9%
無回答	2人	3.1%
合 計	63人	100.0%

(4) 御意見の内訳

項 目	意見数
①計画全体について	10件
②計画の推進について	11件
③具体的な施策について	90件
④その他	9件
合 計	120件

(5) 分野の内訳

項 目	意見数
防犯について	30件
交通安全について	40件
内容について	7件
その他	43件
合 計	120件

2 主な御意見と本市の対応

	件 数
ビジョン・実施計画に反映させるもの	11件
ビジョン・実施計画に含まれているもの また、計画中の取組の更なる充実を求めるもの	37件
今後の取組の参考とするもの	57件
その他	15件
合 計	120件

京都市生活安全ビジョン 資料編
(第4次防犯・事故防止基本計画)
令和8年3月

京都市文化市民局文化市民部くらし安全推進課
〒604-8571
京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地
電 話：075-222-3193
FAX：075-213-5539